

雨の日の出来事

御津中・1 清水 美咲

五月二十八日、その日は朝から大雨が降っていました。自転車で学校に行くのは危ないので、母に車で学校の近くまで送ってもらったことになりました。

いつもは七十八歳の祖父も自転車でお墓参りに行ったり、コンビニに買い物に行ったりしてとても元気なのですが、その日は大雨だったので一人で歩いてコンビニへお昼ご飯を買いに行ったそうです。そのコンビニの帰り道の十一時半頃、家まであと五分くらいの所で事件は起きました。祖父は、足が滑って転んでしまいました。そのときは運悪く、コンビニで買ってきた物と傘で手がふさがっていたようで、顎から転んで、顎を切ってしまいました。血が止まらなかったけれど、なんとか家まで帰ってこられたそうです。

祖父が家に帰ってきた頃は、みんな仕事や学校で家にいなかったもので、祖父は一人で血を止めようと必死でした。だけど、全然止まりませんでした。

そして、十三時頃になると母が仕事から帰ってきました。母がたまたま祖父の部屋をのぞくと、祖父が顎から血を流して座っていたので、すごく驚いたそうです。とりあえず、家にあつたいちばん大きいばんそうこうを貼りました。

その日は、午後から警報級の大雨予報が発表されていて、十三時半下校に変更されていました。母は、学校の近くまで私を迎えに行かないといけなかったもので、ひとまず迎えに行きました。私が車に乗り込むと、母は、

「おじいちゃんが転んで顎から血が止まらないよ。どうしよう。」と不安そうに言いました。私は、

「え、そうなの。大丈夫かな。」

と言いました。私は、祖父がけがをしたと知って、とても心配になりました。早く家に帰って祖父の様子を見たいと思いました。

家に帰ったら、私はすぐに祖父の元へ駆けつけました。祖父は母の言ったとおり、顎から血を流して座っていました。私は、

「おじいちゃん、大丈夫？」

と聞きました。そしたら祖父は、

「大丈夫じゃない。」

と心細そうに言いました。祖父は、山登りや川へつりに行くなど、いつも元気なので、こんなに心細そうな祖父は初めて見ました。元気な祖父が大丈夫じゃないと言うほど、深刻な状況なんだと思いました。私は、

「どうしよう。お母さんどうする？」

と慌てて言いました。母は、

「午後の診療時間まで待てない。救急車を呼んだほうが早いから今すぐ救急車を呼ぼう。おじいちゃん、救急車呼ぶよ。いい？」

と言いました。祖父は、

「うん。」

と静かにうなずきました。

そして救急車を呼ぶことにしました。一一九番に電話すると、すぐにつながりました。祖父の年齢やけがの状況、住所を説明し、保険証の確認、着替えなどをしていると、救急車のサイレンが聞こえてきました。私は玄関先に出て、救急車が通り過ぎてしまわないように、大きく手を振りました。

救急車は五分くらいで着きました。でも、受け入れてくれる病院が決まるまで三十分近く家の前に救急車が止まっていて道をふさいでしまっていたので、通りたがっている車は、みんな回り道してくれました。

やっと受け入れてくれる病院が決まり、母は顎だけ縫えば帰って

こられると思っていたので、車で病院まで向かっていました。

私は家で待っていて、おじいちゃん、大丈夫かな。心配だなと思っていました。そう思っていると、母からラインで、

「このまま入院することになったよ。顎の骨が折れてた。六月六日に手術するよ。」

と連絡があり、私は驚きました。顎だけ縫って帰ってくると思っていたので、入院すると知ってとても心配になりました。

診断の結果は、下顎骨折・両側の関節突起骨折でした。三週間くらい入院することになり、しばらく祖父に会えないから寂しいと思いました。まさか骨が折れているとは思わなかったし、顎の骨が折れるなんて想像しただけで痛すぎると思いました。

翌日、私は家族とお見舞いに行きました。病室は四人部屋で、あまり大きい声を出せないのです、小声で、

「おじいちゃん、大丈夫？」

「大丈夫だよ。学校行ったか？」

「うん、行ったよ。早くよくなるといいね。」

と何気ない会話がとても幸せに感じました。祖父も、私に会えてうれしそうでした。短い時間だったけれど、祖父の顔が見られてよかったと思いました。

六月六日、全身麻酔による三時間に及ぶ手術の日です。どのような手術をするのかというと、顎にチタンプレートを入れてスクリューというねじでとめる手術です。チタンプレートは、もう一生顎の骨にくっついていていそうです。私はそれを知ったとき、どうして一生骨にくっついていないといけないのかと疑問に思いました。チタンプレートを取るには、また全身麻酔で手術しなければならぬので、高齢の場合はもう取らないそうです。

手術当日、母は祖父の付き添いに病院に行きました。父も仕事で帰りが遅く、母も遅くまで帰ってこれないので、豊橋に住んでいる母方の祖母が手伝いに来てくれて、一緒に留守番することになり

ました。心配だけど、きっと元気になってくると信じて待っていました。

祖母は晩ご飯を作ってくれたり、習い事の送り迎えをしてくれたりしたので、とても助かりました。祖母の作るご飯は、久しぶりに食べたけれど、やっぱりとてもおいしかったです。肉じゃがとシチューを作ってくれました。とてもおいしかったので、おかわりもしました。祖父にも食べさせてあげたいなと思いました。

無事、祖父の手術は成功し、祖父は手術当日にはもうおかゆが食べられるようになっていて、回復の速さに驚きました。お見舞いに行くいつもにこにこで、その笑顔を見ると私までにこにこになって、とてもうれしかったです。一緒にお菓子を食べたり、お話をしたりしました。

「お菓子、一緒に食べるといおいしいね。」

「退院したら何食べたい？」

「まぐろかな。うなぎも食べたいな。」

また小さな幸せがたくさん発見できました。

六月十五日、退院の日になりました。約三週間ぶりに家に帰ってきたときは、とてもうれしかったです。祖父が、

「ただいま。」

と言いました。私は、

「おかえり。」

と全力でお迎えしました。やっぱり家族は、みんなそろっていることがいちばんいいと思いました。母は、祖父が食べやすいように、おかゆを作ったり、柔らかいおかずを考えたりと大変そうだけれど、私はいつもの日常が戻ってきて、幸せな気持ちになりました。

また、一緒にたけのこ掘りにも行きたいし、花も見たいし、まだ祖父とやりたいことがたくさんあるので、いつまでも元気で長生きしてほしいなと思いました。

雨の日は滑りやすいから、もう転ばないように気をつけてほしい

と思いました。私も転んだら痛いし、骨まで折れたら大変なことになるってしまうから、転ばないように気をつけようと思いました。

家族全員が健康でいてくれることが何よりも大切なことで、あたりまえではないってことと、家族の大切さがよく分かりました。これからも、小さな幸せをたくさん見つけていきたいです。6・9